



特別時間割始まる

後期の中間考査が終わって、3年生は昨日から特別授業が始まっている。

これは、いよいよ始まる受験に直結した授業で、3年生は前もって示された時間割（扱う内容や担当者が分かるので、予備校の講習のような感じ…）の中から、自分に必要な講座を選んで時間割をつくり、それに従って受験に向けた最終準備を進めるというもので、来年の1月末まで実施される。

この時期は、文系でいえば地歴公民、理系でいえば理科の追い込みの時期に当たるので、まずは選択しなければならない理社の講座を決めて、残ったコマに自分に必要な科目を入れていくといった感じで時間割を作成する。国語は、通常的时间割の必修・必修選択の時間帯に特別講座を設定するので、午前中を中心に開講することになるが、地歴公民や理科は、午後にも講座が用意されていて、しっかり力が養えるようになっている。

ちなみに、1限から7限までまんべんなく用意されている講座を、毎日すべて選択しなければいけないというのではない。理社をしっかり選択した上で、残りの時間をどう使うかは、各自で自分の状況や性格（例えば、無理矢理講座を選択しておかないと、この科目は後回しになって勉強しなくなってしまうそう…とか）に合わせて工夫することになる。というのも、この時期センター試験に向けた準備をするのと同時に、二次試験を意識した記述式問題の準備、つまり、添削指導も受け始めなければならないからである。また、私立大学の過去問に取り組み始める人もいるだろう。だから、そういう自分で勉強する時間（自勉の時間）も一日の中に設定しながら時

間割を組むことになるのである。例えば、文系の人なら、

月曜日	1 限	自習（英単語）
	2～3 限	世界史講座
	4～5 限	英語センター演習
	6～7 限	センター生物基礎・地学基礎演習
火曜日	1 限	古文単語演習
	2～3 限	地理講座
	4～5 限	自習（国立二次記述問題演習→添削指導）
	6～7 限	数学センター演習

みないな感じになって、他の曜日に「現代文センター演習」や「古典センター演習」、さらに「センターリスニング対策」などといった講座を配置していくことになるわけだ。ちなみに、理社は複数曜日に設定される。

*

国語科では、「古文単語」という講座、「センター古典」「センター現代文」というセンター試験用の問題集を活用した講座、そして国公立大の二次試験の過去問を題材にして記述対策の基本を確認する「古文演習」「漢文演習」といった講座を用意している。

私はこのうち、「センター古典」と「古文演習」を2講座ずつ担当する。短時間で解答のポイントを解説したり、重要事項の復習をしたりしなければならないし、受講している3年生も必死なので、その熱意に応える準備をするのは結構大変である（学年集会の時のように、「3つ大切なことがある！」と言いながら、それが2つしか出てこないといったことは許されない…笑）。やれやれである。